

あいち農産物生産流通レポート

2021年6月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 無加温ハウスを活用して1～4月に出荷可能な鉢花の選定とその栽培方法 (農業総合試験場)	1
◎ 地域トピックス	
・ 「山笑う里」が加工品の製造・販売事業開始 (知多農林水産事務所)	3
◎ 東日本情報	
・ JapanマーケティングWeekが開催されました (東京事務所)	4
◎ 西日本情報	
・ 新たな「愛知県6次産業化推進戦略」の策定について (食育消費流通課)	6
◎ フラワーページ	
・ 愛知県の花きの生産動向について (園芸農産課)	8
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	11
・ 名古屋・東京市場における青果物の6月の見通し	12
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の6月の見通し(県内市場)	24

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

無加温ハウスを活用して1～4月に出荷可能な鉢花の選定とその栽培方法

農業総合試験場

多くの鉢花生産者は、需要が最も高まる5月の母の日向けの出荷に力を注ぎます。

その準備期間の1月から4月にかけては、出荷物が少なくなることから収入が減少し、経営上の不安定要因になっています。このため、コストを抑えながら主力品目と併せて栽培でき、出荷の平準化につながる新たな鉢花の導入が求められています。

そこで、無加温ハウスを活用することにより、この期間に出荷が可能となる鉢花経営の補完品目を選定するとともに、商品性を高める栽培方法を明らかにしました。

1 品目の選定

無加温ハウス内の温度は、夜間は外気と同程度まで低下し、晴れた昼間は日照によって外気よりも高くなります。

この環境下でも鉢花を生産できる可能性のある品目として、ストック、ローズマリー、ハボタン、ゴデチア、ゼラニウム、アジサイ、シバザクラの栽培試験を行いました。

その結果、露地栽培より生育が旺盛になり、鉢花として出荷可能なボリュームが確保できたストック、ハボタン及びローズマリーの3品目を選定し、無加温ハウスによる促成栽培のための栽培暦を作成しました。

一方、他の4品目は、枯死又は草姿の乱れが発生したため、不適と判断しました。

2 栽培方法

(ア) ストック

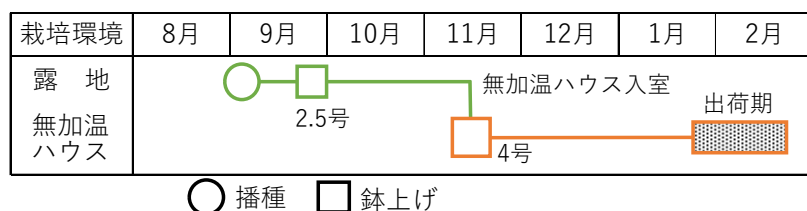
ストックは、11月に露地から無加温ハウスへ移動して栽培することで生育・開花が早まり、株高・株幅ともに十分増加して花の着色も良好となり、1月には鉢花として出荷が可能になります(表1、図1)。

2月のフラワーバレンタインの贈答用として、新規の需要に向けた生産にも対応できます。

表1 無加温ハウス栽培がストックの生育に及ぼす影響
(1月10日)

試験区	株高(cm)	株幅(cm)
無加温ハウス	25.0 a	18.1 a
露地	13.1 b	15.5 b

異符号間に1%水準で有意差あり



生育・開花状況の比較

図1 無加温ハウスを利用したストック栽培暦

(イ) ローズマリー

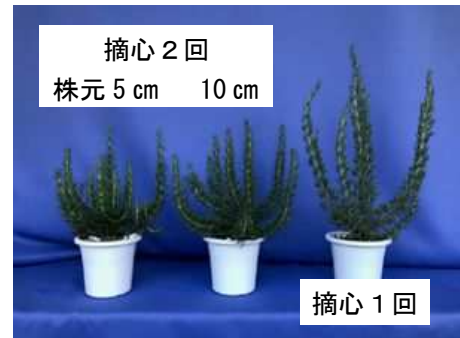
ローズマリーは、11月に無加温ハウスに入室することで生育が早まり、3月から4月まで出荷できるようになります。

ボリュームを持たせるための摘心は2回（6月、9月）とし、ともに株元から5cmの高さで行うことにより、分枝が株元から多く発生し、コンパクトでバランスのよい草姿に仕立てることができます（表2、図2）。

表2 ローズマリーの摘心方法が生育に及ぼす影響
(3月15日)

試験区	株高(cm)	株幅(cm)	分枝数(本)
2回摘心5cm	26.4 c	24.0 a	17.7 a
2回摘心10cm	30.5 b	23.7 a	18.0 a
1回摘心	36.2 a	23.3 a	11.3 b

異符号間に1%水準で有意差あり



摘心方法と草姿の違い

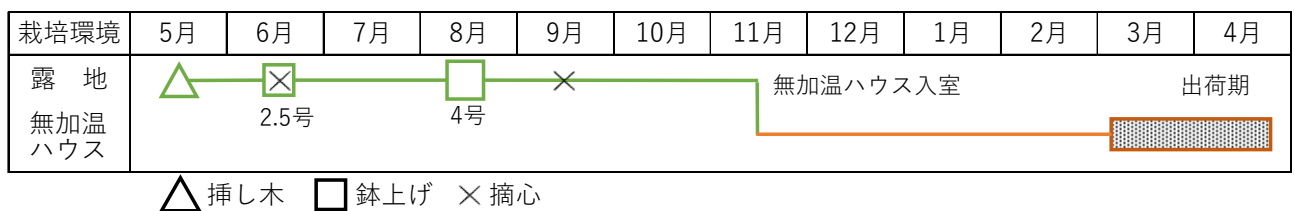


図2 無加温ハウスを利用したローズマリー栽培暦

(ウ) ハボタン

ハボタンは、播種時期によって2種類の仕立て方で鉢花生産できることが分かりました。

播種が7月のものは側枝が長く伸びる「踊り」仕立てに、播種が8月のものは側枝が短く茎の先端が密集した「ブーケ」仕立てにできます

いずれの仕立て方法も、9月の鉢上げと同時に無加温ハウスへ入室することにより、1、2月出荷が可能となります（図3）。



播種時期と仕立て

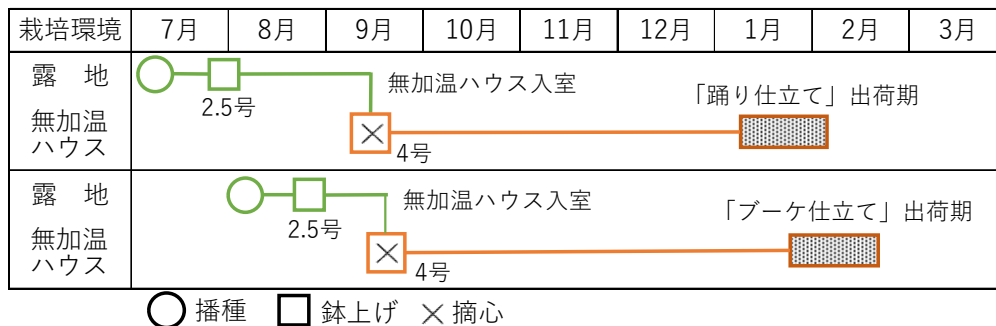


図3 無加温ハウスを利用したハボタン栽培暦

3 まとめ

無加温ハウスを活用した促成栽培によって1～4月の出荷品目が増加することで、鉢花生産者の経営安定に寄与するとともに、消費者が購入できる鉢花の選択肢が拡大することが期待できます。

「山笑う里」が加工品の製造・販売事業開始

知多農林水産事務所

美浜町の株式会社山笑う里（知多郡美浜町大字北方字吉田流 52 番地 1）が、六次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画「自社で栽培した完熟イチゴやフルーツトマトを使用した、作物本来の味を活かした加工品の製造・販売事業」の認定を受け、認定証交付式が、2021年3月18日にえびせんべいの里美浜本店にて行われました。



認定証授与



自社栽培イチゴと加工品（ジャム）

1 山笑う里について

山笑う里は、農作物を生産し、自社ブランドとして流通・販売することを目的に2015年に設立された、えびせんべいの里のグループ会社です。

イチゴとトマトを中心に、自社で収穫した農作物を隣接するえびせんべいの里本店の店頭で販売するとともに、2020年10月からミカン狩りと親子イチゴジャム作りの加工体験事業を、2021年1月からいちご狩りを開始しました。

2 総合化事業計画の内容

山笑う里は、「一年中いつでも、わくわくする農業体験が楽しめる体験型観光農園」を新たに作り上げることを長期ビジョンとしています。

その実現のために、農作物の生産拡大、自社農作物を使用した加工品の商品ラインナップの充実、直売施設など販売体制の整備を総合化事業計画の中に位置づけ、自社農園で収穫した完熟イチゴやフルーツトマトを使った新商品の開発に取り組むなど、5年間で4品の加工品の製造・販売を開始することとしております。

株式会社山笑う里

住 所 知多郡美浜町大字北方字吉田流 52 番地 1

(知多半島道路 美浜 IC 降りて信号左折、300m直進して看板を右折)

電 話 番 号 0569-82-0248 (えびせんべいの里美浜本店)

ホームページ <https://yamawara.com/wp/>

Japan マーケティング Week が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2021年4月21日(水)～23日(金)に、東京ビックサイトにおいて「第13回 Japan マーケティング Week 【夏】」(主催:リードエグジビションジャパン(株))が開催されました。

1 Japan マーケティング Week とは

第13回 Japan マーケティング Week 【夏】は、販促 EXPO や Web 販促 EXPO、海外プロモーション EXPO、営業支援 EXPO などの7つのセクションから構成されたマーケティングの総合展です。会場ではノベルティグッズやアプリ、器具といった様々な商品やサービスが展示、紹介されていました。

時勢を反映し、販促 EXPO にはウイルス対策グッズゾーンが設けられていましたが、それ以外の場所でもマスクや消毒用商品を扱う会社が多くあり、カラフルなオリジナルマスクが目についたほか、ボールペン・スプレー・タッチペンとして使える衛生多機能ボールペン、透明マウスシールドなどの多様な商品が展示されていました。

また、エコバッグや廃棄ペットボトル、再生コットンを利用したリサイクルバッグといった環境に配慮した商品も目につき、SDGs への意識が感じられました。珍しい商品として、お米のボールペンや芽が出る鉛筆などがあり、お米のボールペンは備蓄米を利用したライスレジ[®]によって作られており、多くの関心を集めていました。

そのほか、スタンプラリーアプリや名刺管理、ホームページ制作代行、AI チャットボットなどの多様なサービスが紹介されていました。

3回目の緊急事態宣言の発出前に開催され、連日 4,000 名以上の多くの来場者で賑わっていました。



会場の様子



お米のボールペン

2 関連セミナー

Japan マーケティング Week では、マーケティング関連のセミナーも行われました。

(1) プロモーション戦略

「変化する市場で、価値を提供し続ける“モンスターブランド”の強さ」と題した講演を行った(株)ミクシィ執行役員根本悠子氏は、ソーシャルネットワーキングサービ

ス（SNS）である mixi のプロモーションに従事し、育児休業からの復職後は一貫してゲームアプリであるモンスターストライク（以下、「モンスター」という。）のプロモーションに従事しています。

ゲームアプリ業界は市場変化が激しい中であって、モンスターは令和2年に首位の座を奪還しましたが、その成功要因は①ブランド・本質的価値に立脚する戦略立案、②中長期戦略・戦術の実行、③組織改革の3点にあるとしました。モンスターが提供し続ける価値を「友達との時間を通じて絆が深まる」と定義し、3年後、5年後の姿をイメージし、そのために今は何をすべきかを考え、それらを実行するために必要な組織改革を行いました。

「愚直に実行した」との言葉を何度も発されていたのが印象的でした。



セミナー会場の様子 1

（2）ブランディング戦略

「ラグジュアリービールで新市場を創造する、ROCOCO Tokyo のブランディング戦略～発売1年で、100 店以上の星付きレストランに愛された理由～」と題し、Maison Rococo（株）CEO 若林洋平氏による講演もありました。

高級レストランにおいて客がビールを注文しないのは、場に見合う高級なビールがないことが原因と考えた若林氏とその友人は、3人でラグジュアリービールの会社を立ち上げました。18 か月をかけて作った日本初のラグジュアリービール「ROCOCO Tokyo WHITE」の売り込みは、自転車に乗っての飛び込み営業から始まり、今では多くの高級レストランで取り扱われるようになっていきます。

若林氏は、「ブランディングとは未開の市場を開拓すること」とし、重要なのは、最初にブランドの存在意義や目的を明確にし、次に戦略をつくり、そして何をするかを考え、地道に実行することとしました。また、ブランドのイメージと品質が合致していることが重要であるほか、「ROCOCO Tokyo WHITE」の取扱いはブランドイメージに合うレストランに限定し、小売販売も行っていないが、そのように一見販売数が伸びることでも目先の利益にとらわれず、ブランドイメージを重視してイメージに合わないことは行うべきでないと話されました。さらに、ソーシャルメディアはブランドを広めるには有効で強力なツールであり、うまく活用できればいいが、誤解を生じさせる可能性があるため投稿は慎重にすべきと注意がありました。



セミナー会場の様子 2

両氏とも、ブランドの定義づけ、戦略の策定、実行というプロセスの重要性を語られました。農産物や加工品についても様々な特徴やPRポイントがありますが、いずれであっても、その価値がどこにあるかを意識し、そのために何をすべきかを考え、実行していくことが、消費者に選ばれるために重要なことといえます。

新たな「愛知県6次産業化推進戦略」の策定について

食育消費流通課

本県では農林水産業の6次産業化の推進にあたり、その取組方針となる「愛知県6次産業化推進戦略（2016年3月策定）」に基づき、様々な支援を行ってきました。しかし、近年の6次産業化をめぐる情勢は大きく変化しており、観光農園や農泊との連携等による体験（コト）に対するさらなる需要の高まりや、ECサイトなどのオンライン活用の増加などにより、農林漁業者等の幅広い知識が求められるようになってきています。

こうした新たな課題を解決し、農林漁業者等の6次産業化への取組をさらに前進させるための指針として、2021年3月に新たな「愛知県6次産業化推進戦略」を策定しました。

1 戦略の位置づけ

この戦略は、本県全体の長期計画である「あいちビジョン2030」や本県の食と緑に関する施策の基本的な方針である「食と緑の基本計画2025」の6次産業化に係る個別計画として位置づけています。

2 戦略の期間

2021年度から2025年度までの5年間

3 6次産業化のめざすべき姿

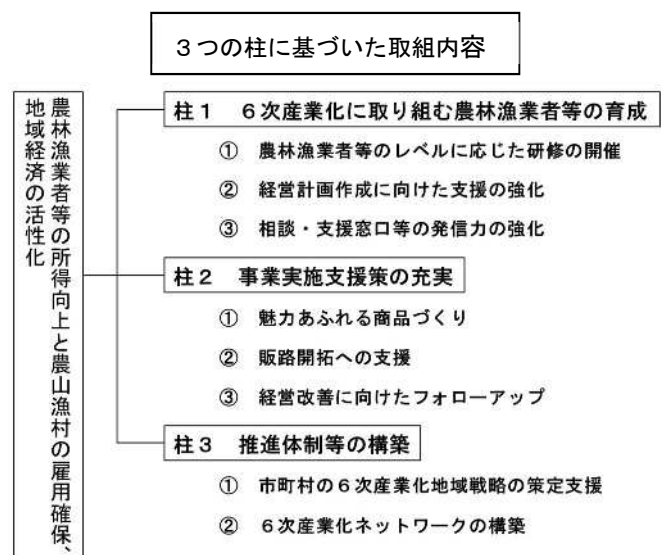
- (1) 6次産業化の取組を進める中で、経営者として自立し、自ら行動できる農林漁業者等を育成。
- (2) 愛知県の豊かな農林水産資源を基盤として、食品製造業の持つ技術や観光資源等の地域の力を積極的に活用し、他の産業に波及する6次産業化を推進。

こうした考え方により、6次産業化による農林漁業者の所得向上と農山漁村の雇用確保、地域経済の活性化をめざします。

4 取組の方向

めざす姿の実現に向け、引き続き6次産業化に取り組む意欲のある農林漁業者等に対する新商品開発や販路開拓等の支援を充実・強化します。加えて、6次産業化の地域的な広がりや関係者の連携の効果が限定的となっている現状を踏まえ、6次産業化に取り組む農林漁業者等と他事業者とのネットワークを構築して、観光や地域産業との連携などの取組を強化します。

こうした取組を3つの柱として位置づけ、本県農林水産業の6次産業化の一層の推進を図ります。



5 戦略の目標

戦略では、3つの目標指標を設定しました。

項目	目標数値
目標①：6次産業化事業体数の割合※1	2018年度 3.8% ⇒ 2025年度 6.0%
目標②：経営改善戦略の策定数※2	2020年度 29件 ⇒ 2025年度 125件
目標③：6次産業化ネットワーク会員数※3	2020年度 0事業者 ⇒ 2025年度 200事業者

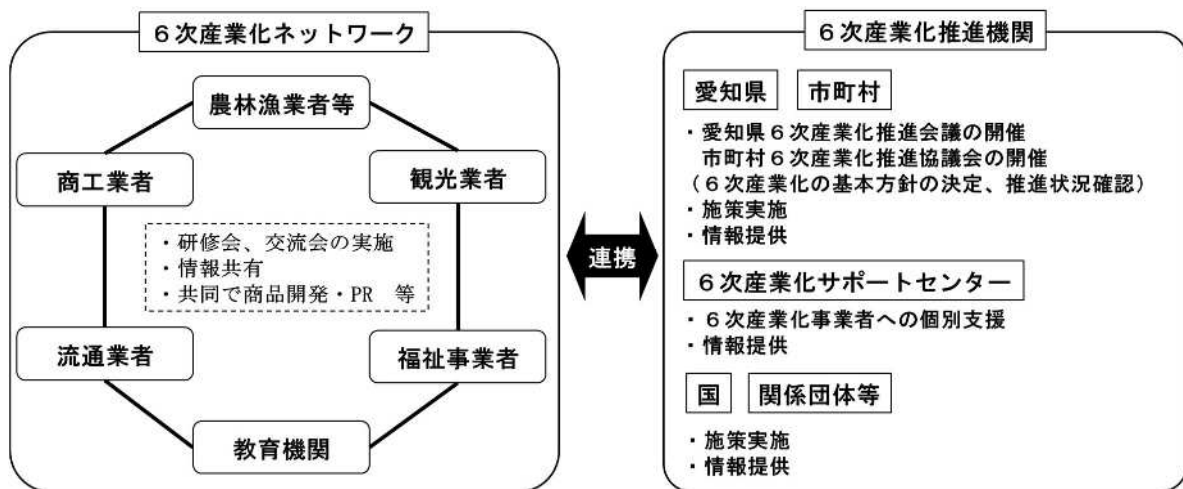
- ※1 6次産業化総合調査結果による。農業経営体に対する6次産業化事業体数の割合
 ※2 6次産業化サポートセンターの支援により、経営改善戦略を策定した農林漁業者等
 ※3 総合化事業計画認定者、経営改善戦略策定者、商工業者などの関連事業者等

6 推進支援体制

農林漁業者等が行う6次産業化への助言・指導については、県が設置する「6次産業化サポートセンター※」が中心を担います。また、県及び市町村は6次産業化推進会議を組織し、国や関係団体との連携のもと必要な支援策を実施します。

加えて、6次産業化の地域への波及に向け農林漁業者、商工業者、観光業者など6次産業化に関係する様々な団体等と構築した6次産業化ネットワークに対しては、県及び市町村協議会や6次産業化サポートセンター、国等が連携して、この活動を支援していきます。

- ※6次産業化サポートセンター：6次産業化に取り組む農林漁業者等の経営改善戦略の策定・実施のためにサポートセンターに所属するプランナーを派遣し、個別相談により支援する機関。



7 その他

愛知県6次産業化推進戦略は以下でご覧いただけます。

URL:<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shokuiku/6jikasensryaku2025.html>

愛知県の花きの生産動向について

園芸農産課

毎年、農林水産省が発表している全国の花き生産状況について、2019年産の数値が発表されましたので、産出額の推移や市町村別産出額の割合などについて紹介します。

1 愛知県の花きの産出額

2019年産の愛知県の花きの産出額は545億円（前年比100.4%）、全国に占める割合は16.7%で、全国順位は1962年以降、58年連続して1位を保っています。

1998年の763億円をピークに減少傾向でしたが、2011年の526億円を底とし、近年は550億円前後で推移しています（図1）。

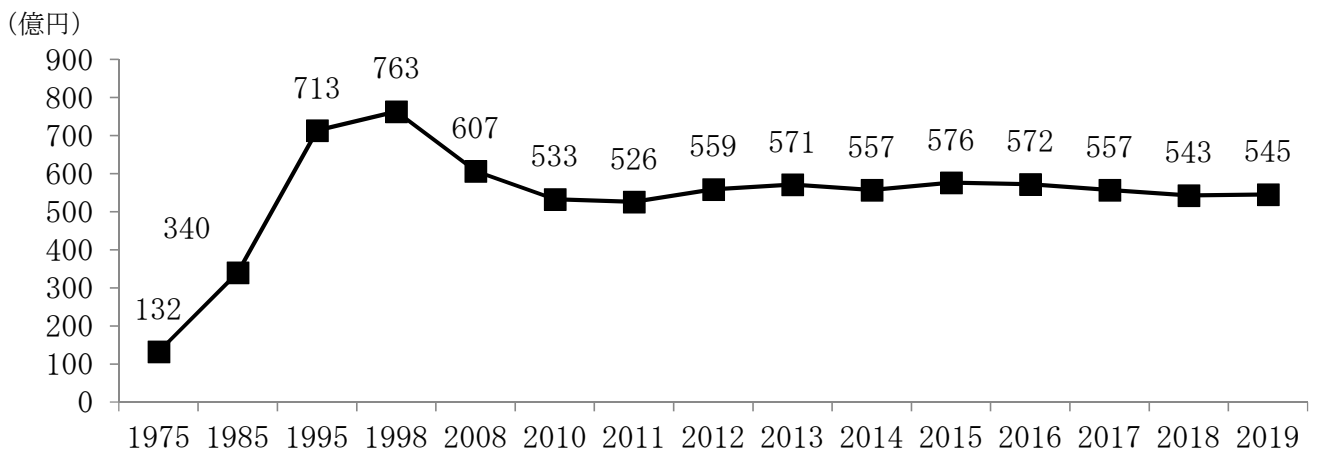


図1 花き産出額の推移

種類別の割合を見ると、545億円のうち312億円（57.2%）が切花、209億円（38.3%）が鉢物、19億円（3.5%）が花壇苗になっています。

最も多く生産されている品目であるきくの産出額は、全体の40.9%（223億円）を占めます。ばらは4.2%（23億円）、カーネーションは3.5%（19億円）、鉢物の洋らんは9.0%（49億円）、観葉植物は7.9%（43億円）、シクラメンは1.3%（7億円）です（図2）。

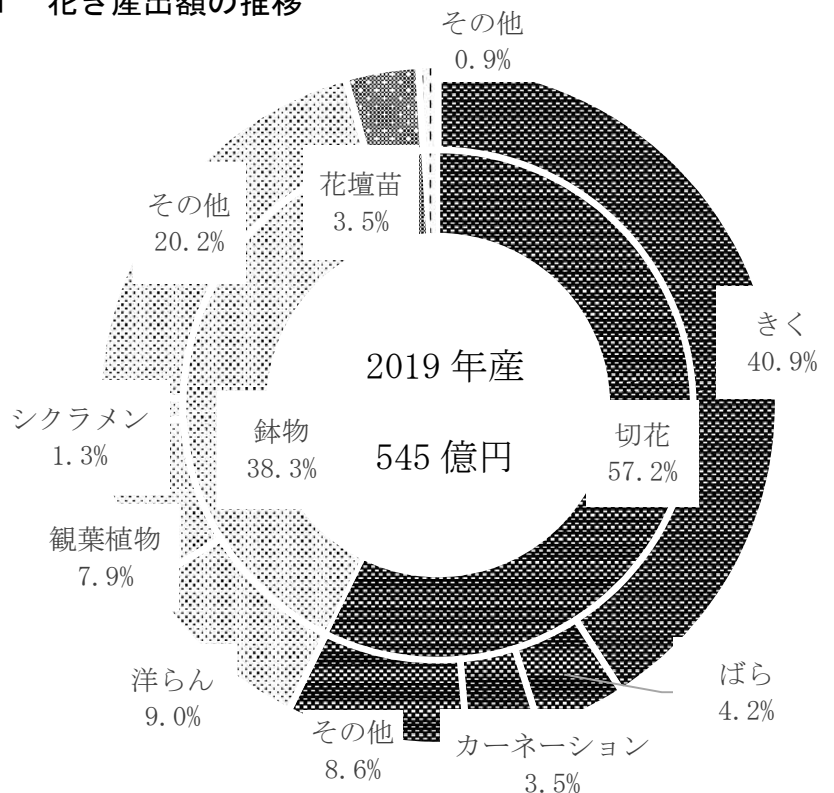


図2 花き産出額の種類別割合

2 愛知県の花きの作付面積

愛知県の花きの作付面積は、前年比 102.2%の 1,961ha でした。種類別に見ると、鉢物は前年から 2.5%減りましたが、切花と花壇苗はそれぞれ前年から 3.3%、2.0%増えています。

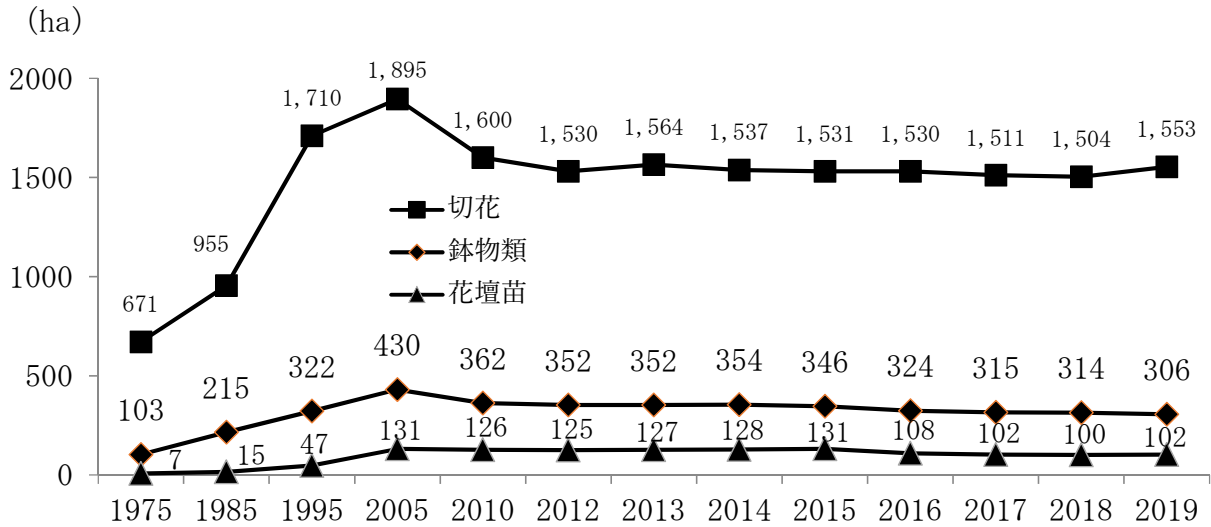


図3 花き作付面積の推移

3 市町村別産出額割合

市町村別の産出額を見ると、田原市が 295 億 5 千万円で県全体の 54.4%を占めています。次いで西尾市の 34 億 4 千万円(6.3%)、豊川市の 31 億 6 千万円(5.8%)、稲沢市の 23 億 9 千万円(4.4%)、豊橋市の 22 億 3 千万円(4.1%)となっており、この 5 市で県内の約 7 割を占めます (図 4)。(市町村別産出額は 2018 年が最新の数値です。)

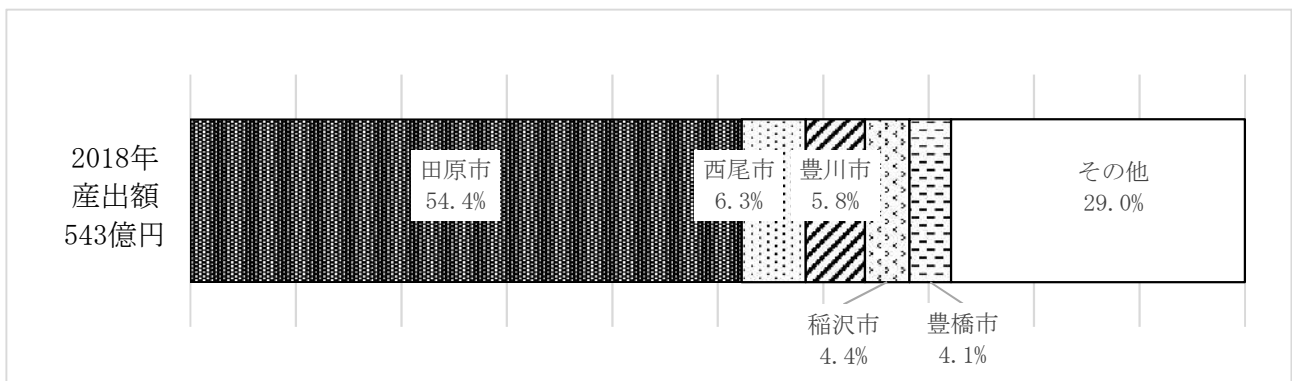


図4 市町村別産出額割合

〈参考〉主要品目の生産状況 (2019 年)

品目	産出額(億円)	作付面積(ha)	出荷量(千本・鉢)	上位 3 都道府県		
				1位	2位	3位
きく	223	1,301	473,300	愛知県	沖縄県	福岡県
ばら	23	47	38,900	愛知県	静岡県	山形県
カーネーション	19	47	45,200	長野県	愛知県	北海道
洋らん(鉢)	49	42	3,330	愛知県	福岡県	埼玉県
観葉植物	43	86	18,400	愛知県	静岡県	三重県
シクラメン	7	16	1,720	愛知県	長野県	栃木県

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：おおば）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
令和2年 実績	301	286 (95%)	2,439	2,439	大分 (2 %) 茨城 (1 %) 高知 (1 %)
令和3年 見通し	280	—	2,200	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
愛知の入荷が中心となる。新型コロナウイルスの影響で消費が低迷し、価格が上がらないこともあり、愛知や大分では生産量を抑え、人件費を削減している。入荷量と価格はともに前年をかなり下回る見込み。			前年から厳しい販売状況が続いており、産地は苦勞をしていると思われる。新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、消費が回復した際に生産量を増加できるよう、準備をお願いしたい。		

○ 東京都中央卸売市場（品目：ハウスミカン）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	うち愛知産		
令和2年 実績	2,917	328 (11%)	1,022	1,227	佐賀 (71%) 愛知 (11%) 長崎 (6 %)
令和3年 見通し	2,900	—	990	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
佐賀を中心に愛知、長崎が入荷の大半を占める。前年は7月までの入荷が多いものの8月以降は少なく、全体では入荷量は少なく、単価は高かった。本年は3月からの好天により生育は順調で5月中旬までの入荷量は平年より多く、前年をわずかに下回った。今後の入荷量は7月から増え、旧盆前にピークを迎える見込み。 梅雨入りが平年よりも3週間ほど早く、日照不足の影響で着色遅れや、品質低下が懸念されることから、入荷量は少なかった前年並、価格は前年をやや下回る見込み。			品質的に安定しているハウスミカンは、底堅い需要がある。また、中元商戦やお盆の時期を始めとしたギフト・お祝い品としての引き合いも強い。 なかでも愛知県産は、他産地よりも良食味で、品質も安定しており、果物専門店や量販店などからの信頼が高い。今後も信頼を維持していくために、出荷にあたってはこれまで以上に浮皮や着色などに注意して選果して欲しい。		

名古屋・東京市場における青果物の6月の見通し

名古屋市中央卸売市場

5月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	28年	32,650	251	252	256	242	長野 10%
	29年	30,484	256	261	262	239	愛知 10%
	30年	31,384	243	235	243	239	茨城 6%
	元年	32,350	222	221	213	220	兵庫 3%
	2年	32,300	223	221	222	209	青森 3%
	5ヵ年平均	31,834	239	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	30,800	203	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知、長野、茨城などから入荷する。5月上旬は天候に恵まれ、生育は概ね順調。平年並の入荷を予想する品目が多い。業務需要の低迷により、販売に苦戦する品目もある見込み。 入荷量は前年をやや下回り、単価は前年をかなり下回る見込み。							
だいこん	28年	1,562	96	86	105	103	青森 59%
	29年	1,392	110	88	134	117	北海道 19%
	30年	1,410	101	103	109	100	愛知 17%
	元年	1,574	88	86	104	82	岐阜 2%
	2年	1,579	111	120	112	108	千葉 2%
	5ヵ年平均	1,503	101	97	112	102	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,500	103	103	103	103	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
青森を中心に北海道、愛知などから入荷する。愛知の入荷は上旬で終了の予定。後続産地の青森は平年並で中旬以降増加。北海道は平年並で下旬以降増加の見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							
にんじん	28年	1,447	151	145	167	148	岐阜 48%
	29年	1,349	143	138	146	148	茨城 10%
	30年	1,771	99	89	103	109	北海道 9%
	元年	1,746	116	105	123	121	兵庫 7%
	2年	1,602	199	154	197	262	長崎 7%
	5ヵ年平均	1,583	140	124	145	156	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,550	146	130	140	170	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
岐阜を中心に、茨城、北海道などから入荷する。岐阜の数量は平年並で、中旬以降減少し、下旬頃に終了予定。後続の青森、北海道は生育順調で、下旬頃から入荷の見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

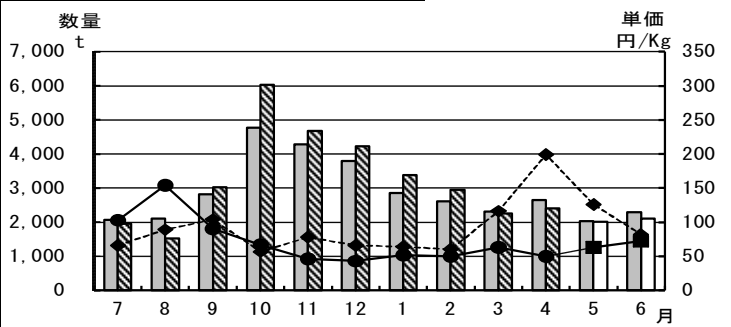
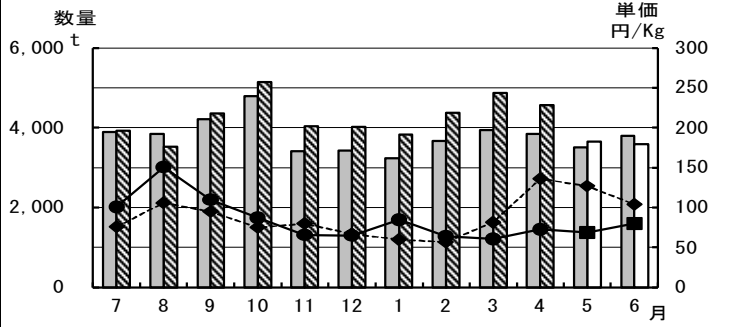
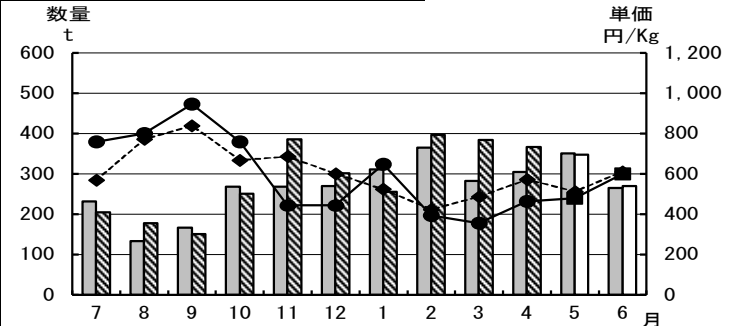
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
野菜計	28年	126,267	259	268	280	259	千葉 17%	
	29年	130,803	258	247	270	258	茨城 16%	
	30年	129,986	235	228	232	243	長野 10%	
	元年	125,077	238	228	245	242	群馬 9%	
	2年	125,334	265	262	256	278	青森 4%	
	5ヵ年平均	127,493	251	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	126,000	250	—	—	—		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地のほか、関東以北の高冷地や東北産地からの入荷が中心となる。キャベツなどは前進傾向も潤沢の一方、低温や東海地方以西の早い梅雨入りの影響で果菜類などは一時的にせよ不足感が出るか。 入荷量は前年並となり、価格は高値だった前年をやや下回る見込み。</p>					
	だいこん	28年	7,878	93	82	106	102	青森 49%
29年		8,071	109	81	143	112	千葉 26%	
30年		7,110	101	100	108	95	北海道 16%	
元年		7,266	82	69	101	79	茨城 4%	
2年		7,172	103	103	102	104	栃木 2%	
5ヵ年平均		7,499	98	87	113	99	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
3年見通し		7,100	100	100	110	90		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉などの関東産地から、青森、北海道へと切り替わる。千葉は生育の前進化により切り上がり及早まるも、後続の青森、北海道は生育順調でやや前進化。産地の切り替えて端境ができると相場上昇か。 入荷量は前年並となり、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>						
にんじん		28年	7,490	131	136	136	121	千葉 72%
	29年	6,941	142	144	143	139	茨城 8%	
	30年	6,867	102	103	98	105	埼玉 7%	
	元年	6,473	123	127	125	117	北海道 3%	
	2年	5,923	174	148	157	227	青森 2%	
	5ヵ年平均	6,739	133	131	131	139	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	6,600	125	130	125	120		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉が大半で、そのほか茨城、埼玉などから入荷する。生育は前進傾向で肥大も良好。切り上がりの早まる産地があるものの出回りは潤沢と見込まれる。産地が出揃って量がまとまると価格は下がるか。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

5月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	28年	1,663	76	94	96	57	長野 80%
	29年	1,614	87	75	99	91	茨城 19%
	30年	1,714	83	81	83	85	山梨 1%
	元年	2,112	70	67	74	69	
	2年	2,288	82	111	73	70	
	5ヵ年平均	1,878	79	86	84	74	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,100	72	85	70	60	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>長野を中心に茨城からも入荷する。長野中心の販売であるが、漬物・加工業務は厳しい販売が続いている。茨城は例年より切り上りが早い予想。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>						
キヤベツ	28年	3,529	108	106	122	100	茨城 48%
	29年	3,658	88	83	88	94	愛知 35%
	30年	3,704	90	75	100	97	長野 9%
	元年	3,555	86	100	82	80	群馬 3%
	2年	3,805	104	104	109	100	秋田 2%
	5ヵ年平均	3,650	95	94	100	94	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	3,600	80	80	80	80	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>茨城、愛知を中心に長野、群馬などからも入荷する。愛知、茨城のピークは6月上旬頃、長野、群馬の出始めは6月中旬以降となる見通し。前進出荷により切り上りが早い予想。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>						
ほうれんそう	28年	248	619	624	618	615	岐阜 83%
	29年	245	642	626	712	615	茨城 7%
	30年	274	575	543	561	629	愛知 3%
	元年	270	560	518	547	641	静岡 3%
	2年	264	611	557	602	715	長野 2%
	5ヵ年平均	260	600	572	606	644	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	270	600	550	600	650	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>岐阜の飛騨地域を中心に茨城などから入荷する。梅雨入りが早かったため、本年は出荷が不安定になる可能性がある。茨城の一部産地は小松菜が低価格であったため、ほうれんそう中心の播種となった。 入荷量は前年わずかに上回り、価格は前年並となる見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

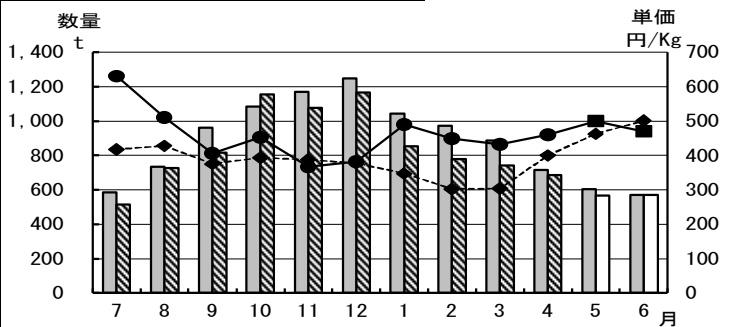
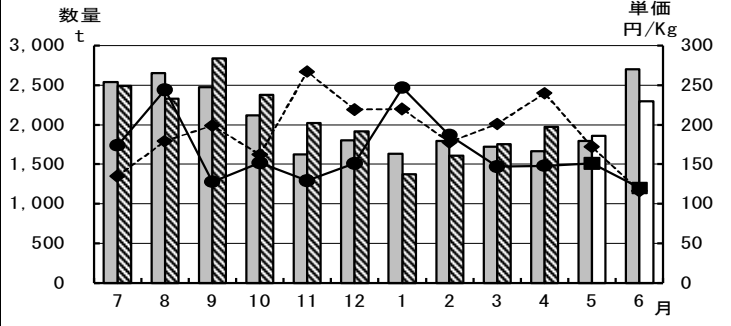
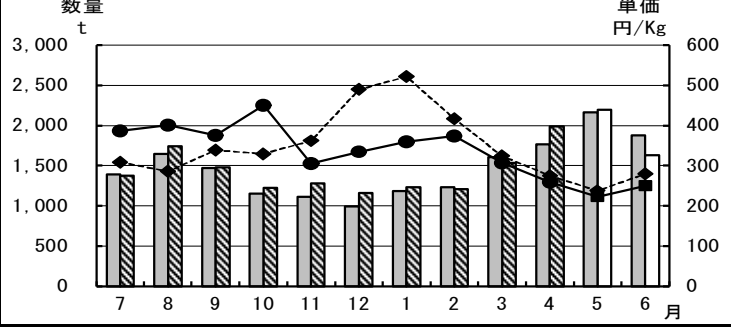
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほういさ	28年	6,037	72	74	88	55	長野 49%
	29年	6,292	72	47	83	85	茨城 29%
	30年	6,856	73	58	76	82	群馬 21%
	元年	6,334	57	46	64	62	山梨 1%
	2年	7,542	69	78	62	67	
	5ヵ年平均	6,612	69	61	74	70	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	7,400	60	60	65	55	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に、茨城、群馬などから入荷する。茨城は前進傾向により切り上がり及早まる。後続の長野は低温等により生育に遅れがみられるも群馬も本格化し、潤沢な出回りとなる見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
キャベツ	28年	15,278	94	85	106	92	千葉 48%
	29年	15,325	78	74	76	85	茨城 24%
	30年	15,878	80	61	85	92	群馬 13%
	元年	16,644	76	82	71	73	愛知 4%
	2年	16,917	90	90	88	92	神奈川 4%
	5ヵ年平均	16,008	84	79	85	87	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	16,500	65	60	65	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、茨城など関東産地から群馬等の高冷地への切り替わり時期となる。生育は総じて前進傾向。主力の千葉は終盤で切り上がり及早まるか。茨城、後続の群馬と順調な入荷により、安値基調が続く見込み。 入荷量は多かった前年をわずかに下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ほうれんそう	28年	1,315	478	492	476	468	群馬 35%
	29年	1,311	490	493	532	446	茨城 31%
	30年	1,325	467	427	450	525	栃木 16%
	元年	1,227	450	385	466	512	岩手 6%
	2年	1,283	503	475	477	579	岐阜 4%
	5ヵ年平均	1,292	478	455	480	506	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,300	460	450	460	470	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城など関東産地を中心に、岩手などからも入荷する。4月の低温により生育遅れがみられたものの、群馬は気温上昇で遅れは解消か。茨城は作付増加に伴い平年より多い見込みも天候次第の面がある。 入荷量は前年並となり、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

5月15日現在

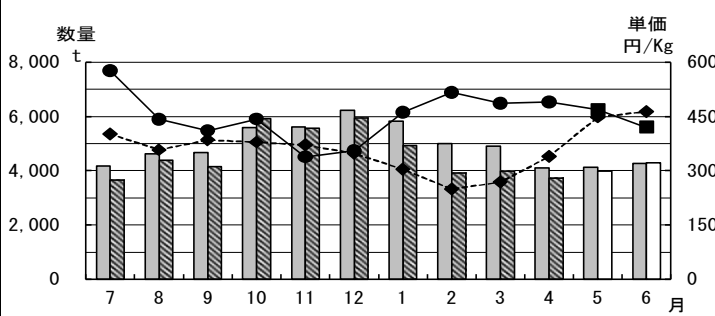
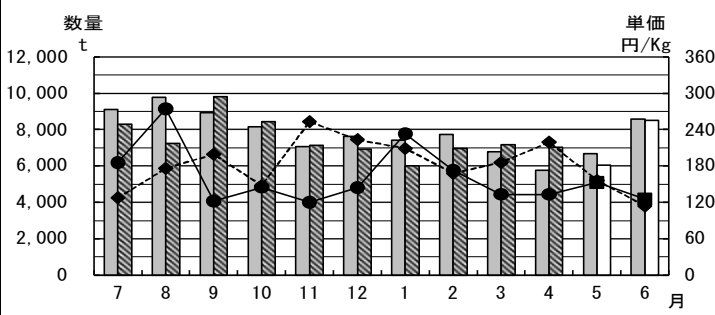
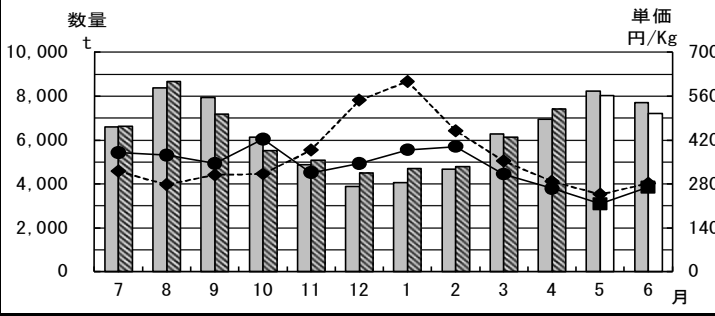
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	28年	581	498	514	516	495	大分 33%
	29年	584	446	447	449	447	愛知 19%
	30年	575	444	480	456	408	茨城 12%
	元年	591	429	445	433	413	静岡 12%
	2年	572	501	488	491	523	中国 4%
	5ヵ年平均	581	463	475	469	457	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	570	470	470	470	470	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知、大分、静岡などから入荷する。愛知の夏ねぎは平年並の入荷見込み。大分、静岡は夏ねぎに移行し、順調に入荷の見通し。長ねぎは順調な入荷の予想。入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。							
し	28年	2,118	144	188	146	133	長野 98%
	29年	2,201	136	145	151	120	山梨 1%
	30年	2,150	143	157	134	142	
	元年	2,231	124	122	125	124	
	2年	2,705	116	145	99	110	
	5ヵ年平均	2,281	132	151	129	125	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,300	120	120	120	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
長野からほぼ全量を入荷する。6月上旬準高冷地と高冷地の出始めが重なってくる見込み。生育は例年より2週間ほど前進しており、作況は良好である。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。							
きゅう	28年	1,396	275	276	261	293	愛知 26%
	29年	1,593	247	236	261	246	長野 21%
	30年	1,609	270	248	263	300	群馬 17%
	元年	1,671	259	229	274	279	宮崎 11%
	2年	1,881	280	269	244	346	埼玉 10%
	5ヵ年平均	1,630	266	251	260	295	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,630	250	240	240	270	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知、群馬などの冬春作、長野などの夏秋作が入荷する。愛知は減少から終了となる。北関東と長野中心となるが、梅雨の状況により中旬以降は不安定な入荷が見込まれる。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	28年	4,184	494	512	488	482	茨城 57%
	29年	4,222	447	423	451	470	千葉 20%
	30年	4,433	395	388	401	397	中国 4%
	元年	4,223	421	427	439	395	福岡 4%
	2年	4,278	464	444	444	509	埼玉 4%
	5ヵ年平均	4,268	444	438	444	450	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	4,300	420	400	410	450	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に、千葉などから入荷する。主力の茨城は生育順調。肥大は良好で太物比率が高い。千葉は前進傾向で生育、肥大ともに良好。不足感のない出回りを見込むも、降雨が続くと減量し価格は上がるか。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p> 					
<p>長野を中心に、群馬などから入荷する。低温等により生育遅れがみられる一方、その後解消された産地もある。主力の長野は、中旬には入荷が本格化する見込み。量がまとまると相場は軟化する見通し。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							
しめじ	28年	8,988	142	180	139	119	長野 74%
	29年	8,826	132	137	146	115	群馬 21%
	30年	8,527	135	143	123	137	茨城 2%
	元年	7,891	115	114	117	115	岩手 2%
	2年	8,596	114	144	98	106	千葉 1%
	5ヵ年平均	8,566	128	144	125	118	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	8,500	125	150	115	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に、群馬などから入荷する。低温等により生育遅れがみられる一方、その後解消された産地もある。主力の長野は、中旬には入荷が本格化する見込み。量がまとまると相場は軟化する見通し。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p> 					
<p>入荷の中心は関東産地となる一方、西南暖地から東北産地へと切り替わる。関東の各産地は不安定な天候のため増量ペースが鈍い。東北産地では低温による生育遅れがみられるも、出回りに不足感はない。入荷量は前年をかなり下回り、価格は高値だった前年をやや下回る見込み。</p>							
きゅうり	28年	7,324	267	255	250	302	群馬 24%
	29年	7,569	257	250	282	239	埼玉 23%
	30年	7,120	274	230	267	324	福島 15%
	元年	6,911	269	230	306	281	茨城 8%
	2年	7,715	282	272	244	344	千葉 8%
	5ヵ年平均	7,328	270	248	269	298	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	7,200	270	290	260	260	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>入荷の中心は関東産地となる一方、西南暖地から東北産地へと切り替わる。関東の各産地は不安定な天候のため増量ペースが鈍い。東北産地では低温による生育遅れがみられるも、出回りに不足感はない。入荷量は前年をかなり下回り、価格は高値だった前年をやや下回る見込み。</p> 					
<p>入荷の中心は関東産地となる一方、西南暖地から東北産地へと切り替わる。関東の各産地は不安定な天候のため増量ペースが鈍い。東北産地では低温による生育遅れがみられるも、出回りに不足感はない。入荷量は前年をかなり下回り、価格は高値だった前年をやや下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

5月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	28年	1,030	353	380	368	321	愛知 34%
	29年	1,142	331	339	333	323	熊本 32%
	30年	1,021	347	343	355	349	宮崎 24%
	元年	1,076	327	318	342	325	高知 4%
	2年	1,110	330	306	325	367	山梨 2%
	5ヵ年平均	1,076	337	337	344	337	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,050	330	330	330	330	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>愛知、熊本、宮崎を中心に入荷する。冬春作の愛知、熊本は平年並の入荷見込み。夏秋作は天候により前進化する可能性あり。宮崎の入荷は増加の見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。</p>							
マ ト	28年	1,525	297	284	311	299	愛知 36%
	29年	1,700	272	254	252	312	熊本 30%
	30年	1,723	226	203	209	265	三重 16%
	元年	1,737	213	200	215	229	岐阜 13%
	2年	1,724	224	203	208	275	北海道 2%
	5ヵ年平均	1,682	245	227	237	275	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,700	216	200	200	250	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>愛知、熊本を中心に三重、岐阜などから入荷する。春系は早い産地では上中旬で入荷終了の見込み。夏秋産地は生育順調だが、下旬には熊本が終了するため全体量は減少。価格は浮上する見込み。 入荷量は前年並、価格は前年よりやや下回る見込み。</p>							
ミ マ ト	28年	473	651	639	692	627	熊本 50%
	29年	565	607	582	607	640	愛知 32%
	30年	650	494	474	477	534	北海道 7%
	元年	717	441	413	425	506	和歌山 6%
	2年	693	455	409	462	516	茨城 3%
	5ヵ年平均	620	518	490	518	557	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	650	500	500	500	500	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>熊本、愛知を中心に北海道、和歌山などから入荷する。春作は前進傾向で切り上げが早い予想。北海道は生育順調で6月初めから入荷開始の見通し。愛知は6月中旬より入荷開始の見通し。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	28年	4,681	400	411	420	366	高知 30%
	29年	5,485	354	347	375	342	群馬 20%
	30年	4,610	389	368	409	391	福岡 12%
	元年	4,516	378	374	410	353	熊本 9%
	2年	4,669	385	352	371	445	茨城 8%
	5ヵ年平均	4,792	380	370	396	378	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	4,600	420	410	430		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知、群馬、福岡からの入荷が中心となる。終盤となる高知、福岡はなり疲れがみられ、また、梅雨入りが早く大きな増量はない見込み。群馬は低温により生育や果実肥大が影響を受けるも平年並には出るか。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
ト マ ト	28年	9,120	297	281	305	307	栃木 24%
	29年	8,788	306	272	299	356	熊本 19%
	30年	8,385	268	238	249	320	愛知 10%
	元年	8,511	253	220	272	277	千葉 9%
	2年	8,345	272	251	248	342	茨城 8%
	5ヵ年平均	8,630	280	253	275	320	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	8,200	275	260	290	275	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本産が終盤を迎え、栃木などの関東産地からの入荷が中心となる。主力の栃木は生育順調で肥大も良好。終盤の熊本、愛知は、梅雨入りに伴う品質低下や着色の鈍化による入荷減が懸念される。入荷量、価格ともに前年並となる見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	28年	1,837	599	583	636	579	熊本 40%
	29年	2,028	578	545	566	628	愛知 20%
	30年	2,187	469	434	444	533	茨城 9%
	元年	2,323	424	382	431	476	千葉 8%
	2年	2,333	420	374	413	490	静岡 7%
	5ヵ年平均	2,142	492	456	490	537	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,100	500	470	500	530	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知を中心に、茨城、千葉、静岡から入荷する。各産地とも生育は概ね順調。熊本、愛知は終盤に入るも梅雨入りが早く、曇天が続けば入荷ペースは平年より鈍り、相場は上向くか。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

5月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	28年	605	329	315	346	351	茨城 48%
	29年	682	295	290	303	333	宮崎 23%
	30年	580	317	283	300	416	高知 22%
	元年	548	344	316	341	403	鹿児島 3%
	2年	615	459	419	457	466	
	5ヵ年平均	606	348	325	349	392	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	585	350	300	350	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
茨城、宮崎、高知を中心に入荷する。宮崎の促成栽培が6月上旬で終了となり、高知、茨城、宮崎が中心の入荷となる。冬春作の産地が終盤となり、下旬は数量が少なく、単価は浮上する見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。							
白菜	28年	2,224	213	231	216	199	長崎 62%
	29年	2,517	154	146	151	168	静岡 31%
	30年	2,663	72	97	72	55	熊本 3%
	元年	2,143	137	120	142	157	愛知 3%
	2年	2,096	287	271	278	324	北海道 1%
	5ヵ年平均	2,328	167	169	167	174	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,300	220	200	220	240	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
長崎を中心に静岡、熊本などから入荷する。長崎は4月は雨が多く、進捗率が上がらなかったため、昨年と比べて5、6月の数量が増える見込み。静岡は6月上旬から入荷のピークを迎える予定。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。							
たまねぎ	28年	4,132	115	125	107	130	愛知 45%
	29年	4,527	90	97	90	83	兵庫 38%
	30年	4,815	75	84	73	79	北海道 14%
	元年	4,720	76	81	79	71	富山 1%
	2年	4,342	87	85	89	89	熊本 1%
	5ヵ年平均	4,507	88	94	87	89	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	4,300	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知と兵庫を中心に北海道などから入荷する。愛知は入荷ピークを過ぎて終盤となる。切り上りが例年より早い見込み。兵庫はL中心の入荷予定で、6月は兵庫中心の販売になる見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。							

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	28年	2,408	347	342	351	茨城 79%	
	29年	2,610	339	324	355	高知 7%	
	30年	2,342	368	323	431	宮崎 7%	
	元年	2,441	372	337	410	岩手 5%	
	2年	2,482	492	473	505	千葉 1%	
	5ヵ年平均	2,457	384	360	384	408	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,400	390	370	390	410	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城からの入荷を大半に、最終盤となる西南暖地などからの入荷となる。茨城は生育順調で果実肥大の遅れは解消し、入荷のピークを迎える。早い梅雨入りで西南暖地からの入荷は平年より少ないか。 入荷量は前年をやや下回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
ばれいしょ	28年	7,694	207	225	208	182	長崎 51%
	29年	9,043	148	149	146	148	静岡 16%
	30年	9,497	69	77	68	62	茨城 11%
	元年	7,621	138	123	140	157	千葉 9%
	2年	6,720	282	283	273	293	北海道 8%
	5ヵ年平均	8,115	161	164	159	160	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	7,400	270	280	260	270	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長崎を中心に静岡や関東産地などからの入荷となる。長崎は生育順調も、雨が長く腐敗が懸念される。続く静岡は、高温と適度な降雨で当初の大玉傾向から、やや小玉になるも、不足感のない出回りを見込む。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年をやや下回る見込み。</p>					
たまねぎ	28年	8,342	146	143	149	148	佐賀 40%
	29年	10,441	101	104	99	99	兵庫 20%
	30年	12,092	75	80	71	75	香川 8%
	元年	11,214	74	73	71	78	栃木 7%
	2年	10,048	95	98	89	99	愛知 6%
	5ヵ年平均	10,427	95	97	93	97	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	10,000	100	110	100	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>佐賀、兵庫を中心に、香川や栃木、愛知からの入荷となる。各産地とも生育は前進化。佐賀は小玉傾向も、その他産地は大玉傾向。一部では収穫後のほ場での乾燥不足や品質低下が懸念される。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

※「その他メロン」は「アールスメロン」以外のメロンをいう。

5月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	28年	8,677	381	377	371	394	愛知 11%
	29年	7,626	416	409	417	416	フィリピン 9%
	30年	7,774	406	400	400	442	熊本 6%
	元年	7,209	429	399	434	473	ニュージーランド 4%
	2年	6,506	447	438	479	479	鳥取 3%
	5ヵ年平均	7,558	414	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	6,200	430	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	すいか、メロンを中心に、ぶどうなどが増量していく。業務需要の低迷により、上旬までは厳しい販売状況が見込まれるが、中下旬からは父の日や早期の中元ギフトにより徐々に上向いてくると予想される。入荷量、価格ともに前年をやや下回る見込み。						
その他メロン (アールスメロン以外)	28年	934	310	346	301	289	熊本 39%
	29年	872	323	360	313	311	愛知 32%
	30年	732	299	322	281	312	茨城 16%
	元年	750	349	371	349	336	山形 4%
	2年	627	387	383	398	389	メキシコ 3%
	5ヵ年平均	783	331	355	325	323	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	550	380	380	380	380		
その他メロン (アールスメロン以外)	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本、愛知、茨城などから入荷する。上旬は熊本と茨城、中旬以降は茨城と愛知を中心に入荷する見込み。気温高により前倒し傾向。昨年より数量はやや少ない見込み。入荷量、価格ともに前年をかなり下回る見込み。						
す	28年	2,253	192	229	190	167	愛知 44%
	29年	2,468	188	215	172	175	熊本 22%
	30年	2,208	190	190	188	193	鳥取 17%
	元年	1,952	228	237	235	214	和歌山 10%
	2年	2,107	252	267	256	235	石川 5%
	5ヵ年平均	2,197	209	227	206	195	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	2,000	230	250	230	220		
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、熊本を中心に鳥取などからも入荷する。熊本は前進し出荷で6月は数量減少。露地に切り替わってからは梅雨による日照不足で入荷量への影響が懸念される。入荷量は前年並で、価格は高値だった前年をやや下回る見込み。						
いか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、熊本を中心に鳥取などからも入荷する。熊本は前進し出荷で6月は数量減少。露地に切り替わってからは梅雨による日照不足で入荷量への影響が懸念される。入荷量は前年並で、価格は高値だった前年をやや下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

5月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	28年	29,889	443	446	455	430	茨城 19%
	29年	29,766	432	405	433	458	千葉 14%
	30年	28,251	472	418	485	506	熊本 10%
	元年	25,493	483	440	495	511	フィリピン 9%
	2年	24,892	526	421	519	574	青森 8%
	5ヵ年平均	27,658	469	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	25,000	470	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	すいか、メロンを中心におうとう、ももなどが入荷する。おうとうは不作傾向だが、その他の品目は生育順調で、全体としては入荷は前年と変わらない見込み。りんごは在庫が多く価格厳しいか。入荷量は前年並、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。						
その他メロン (アールスメロン以外)	28年	4,788	375	420	369	336	茨城 73%
	29年	4,441	384	426	383	362	千葉 11%
	30年	4,382	371	376	372	366	熊本 8%
	元年	4,038	404	418	415	378	山形 4%
	2年	3,767	433	430	435	435	北海道 1%
	5ヵ年平均	4,283	392	414	395	375	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	3,800	430	425	435	430	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	クインシー、アンデスは茨城、タカミは茨城、千葉中心に入荷する。気温が高かったことで前進入荷傾向。また、生育や肥大状況もよく、前年並の入荷を見込む。入荷量、価格は前年並となる見込み。						
すいか	28年	10,462	197	229	194	175	千葉 33%
	29年	10,759	206	239	195	184	熊本 22%
	30年	9,055	214	212	211	217	茨城 20%
	元年	8,719	246	258	247	233	鳥取 13%
	2年	9,161	274	275	285	253	群馬 4%
	5ヵ年平均	9,631	226	243	226	212	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	9,000	230	235	230	225	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	大玉は千葉、熊本、鳥取を中心に入荷する。前進入荷により5月の入荷量が多く、6月は少なくなる見込み。価格は例年並みに落ち着くか。小玉は茨城、和歌山を中心に入荷する。入荷量は前年並、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。						

切花・鉢花の6月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 5月31日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	28年	1,531	52	
		29年	1,798	38	
		30年	1,599	42	
		元年	1,471	38	
		2年	1,139	43	
5ヶ年平均		1,508	43		
3年見通し		1,200	35		
概要	愛知を中心に入荷する。6月一杯は作付けも少なめで出回る数量も少ない。相場も少しづつ回復し、安定する見込み。				
小 ぎ	実績	28年	1,400	25	
		29年	1,401	22	
		30年	1,260	29	
		元年	1,130	19	
		2年	1,099	33	
5ヶ年平均		1,258	25		
3年見通し		1,000	30		
概要	愛知、奈良、埼玉、沖縄から入荷する。上旬の入荷量は少なく、中旬以降は安定した入荷となる見込み。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	28年	964	43	
		29年	1,070	41	
		30年	1,123	40	
		元年	913	41	
		2年	918	40	
5ヶ年平均		998	41		
3年見通し		920	41		
概要	梅雨が早く、愛知の作業は遅れ気味だが、長野中心に変わっていく見込み。例年通り長野もスタンダードの出荷が始まり、続いてスプレーが始まる。例年に比べ1週間ほど前進している。				
か す み	実績	28年	130	82	
		29年	105	93	
		30年	126	89	
		元年	104	82	
		2年	111	76	
5ヶ年平均		115	85		
3年見通し		100	90		
概要	上旬は長野中心に入荷し、中下旬には福島からも入荷する予定。西南暖地の切り上がりも早く、上旬の入荷量は多くない見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	28年	357	122	
		29年	340	143	
		30年	325	133	
		元年	290	124	
		2年	305	104	
		5ヶ年平均		323	
	3年見通し		300	120	
概要	西南暖地については6月の出荷分の作付けを減らしていることから昨年度よりも上中旬の入荷は減少しそう。新潟についても南半球産は早い生育でまとまった出荷になったが、オランダ球産は遅れ気味となっており、上旬の入荷は多くない見込み。				
洋 ら ん	実績	28年	369	77	
		29年	330	89	
		30年	357	76	
		元年	262	83	
		2年	218	86	
		5ヶ年平均		307	
	3年見通し		240	85	
概要	鹿児島、愛知、静岡、輸入が入荷する。国内産のシンビジウムは徐々に減少し、タイ産デンファレも雨期を迎え、減少していく。				
ば ら	実績	28年	860	50	
		29年	838	52	
		30年	700	61	
		元年	677	47	
		2年	628	48	
		5ヶ年平均		741	
	3年見通し		650	50	
概要	愛知、岐阜、三重を中心に入荷する。ローズの日をきっかけに好調なスタートが切れ、入荷量は上中旬中心に増えてくる。緊急事態宣言中の業務需要は期待が薄い。				
枝 も の	実績	28年	1,314	45	
		29年	1,423	46	
		30年	1,337	46	
		元年	1,130	50	
		2年	973	52	
		5ヶ年平均		1,235	
	3年見通し		1,000	50	
概要	長野、岐阜を中心に入荷する。エレムルス、ブルーベリー、クルクマなどの入荷も始まり、スモークツリーは引き合いが強い。寒の戻りが遅くまで残り、入梅も早いいため、実物の受粉に不安がある。また、早い梅雨の影響で盆、秋彼岸用の定植時期も遅れも心配される。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	28年	19,003	1,014	
		29年	18,392	1,017	
		30年	18,915	963	
		元年	18,131	916	
		2年	23,252	975	
	5か年平均		19,539	977	
	3年見通し		21,000	1,024	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。全体に前倒しの出荷になっているため、入荷量は前年より若干減る見込み。作柄の変更は無く、4～6号MIX主体の出荷構成になる。赤・ピンク主体で、月がら白の引き合いが強くなる見込み。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（87.3%）、2位長崎（10.3%）、3位徳島（1.7%）となっている。</p>				
フ ア レ ノ プ シ ス	実 績	29年	23,804	3,360	
		30年	23,351	3,474	
		元年	24,258	2,710	
		2年	23,864	3,077	
		5か年平均		23,313	
	3年見通し		20,000	3,550	
	概要	<p>入荷量は前年より減少か。昨年からの新型コロナウイルスの影響で、前年1年間海外からの苗の供給がうまくいかず生産量減少が要因か。特にミディーの出荷が減る見込み。今年は梅雨入りが早い予想なので温度、湿度には気を付けながら出荷、管理して頂きたい。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（57.0%）、2位静岡（8.4%）、3位宮崎（6.1%）となっている。</p>			
バ ラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	28年	28,991	160	
		29年	27,758	162	
		30年	20,283	129	
		元年	17,970	120	
		2年	30,115	130	
	5か年平均		25,023	142	
	3年見通し		29,000	134	
概要	<p>入荷量は前年よりやや減少する見込み。出荷ピークを過ぎ、中・大鉢仕立ても徐々に減少し、小鉢中心の入荷に移行する。減産傾向がある中、チェーンストアなどの月間販売品などに採用されれば落ち込みは少なくなりそう。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜（45.4%）、2位愛知（25.9%）、3位愛媛（15.4%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイ ドラ ニア	実績	28年	60,623	478	
		29年	72,862	500	
		30年	53,206	524	
		元年	72,955	522	
		2年	62,966	552	
	5か年平均		64,522	515	
	3年見通し		63,000	551	
概要	<p>入荷量は前年並みか。中旬までは玉咲きあじさい（青玉・ピンク赤玉）中心に入荷が多くなると思われる。近年は花持ちの良いマジカルシリーズの生産と需要も増えており、引き合いも強まってきている。7号以上の大きいサイズも入荷が増える見込み。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（69.7%）、2位群馬（6.5%）、3位埼玉（5.5%）となっている。</p>				
ス パ ティ フ ィ ラ ム	実績	28年	7,877	392	
		29年	12,557	291	
		30年	8,058	340	
		元年	10,713	278	
		2年	11,712	306	
	5か年平均		10,183	315	
	3年見通し		11,000	318	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。前年同様に作付け量の減少が要因か。コロナ自粛需要で春先の販売が好調であったので、競売入荷量が減り、注文数が増える見込み。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重（44.9%）、2位愛知（35.2%）、3位岐阜（16.2%）とな</p>				
ド ラ セ ナ 類	実績	28年	25,529	744	
		29年	29,746	655	
		30年	21,231	734	
		元年	20,206	760	
		2年	24,881	888	
	5か年平均		24,319	753	
	3年見通し		23,000	913	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。植物原価と輸送費が大きく高騰し、輸入関連商品が慢性的な品薄になっている。今後販売価格の見直しが必須になる。小鉢から大鉢まで品薄状況が続く見込み。 前年6月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（59.6%）、2位沖縄（15.2%）、3位三重（10.3%）となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.576
2021年6月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434